



## 「みずべ」の歴史 (その5 リバークルーズ)

平成 17 年 (2005 年) に荒川ロックゲートが完成し、隅田川と荒川がつながり、船で航行することができるようになりました。隅田川から小名木川を東へ向かうと扇橋閘門があります。工場の地下水汲み上げによる地盤沈下した地域に対処するため、扇橋閘門から東側の水域は水位が一定に保たれています。街と水辺が切り離されていたこの地域は平成 18 年度 (2006 年度) から東京都の護岸改修工事により、護岸を低くして、テラスを設けるなどして、人々が水辺に近づきやすくなってきました。



エンタメクルーズでの船上からの眺め

内部河川のクルーズ環境も少しずつ整備されてきたこともあり、平成 18 年 (2006 年) から江東区東大島文化センターの協力を得て、水辺の会では「リバーガイド養成講座」を開設しました。これは水辺の魅力を理解するガイドをつくるが必要と考えたからです。第一回目には 25 名の募集に約 100 名の応募があり、急遽定員を 35 名に増やして実施しました。中川船番所資料館の学芸員による歴史説明を学習するほか、昔と今の自然環境や水質調査実験などの環境学習、船の航行ルール学習などを行ない、最後は実際に船上で声を出してガイドをし、お互いの評価、改善点などを話し合いました。修了者は水辺の会のリバーガイドとして活動していただいています。リバーツアーについても、ほぼ同じ時期から定期的を実施するようになり、江東内部河川を航行するクルーズ船が活動しています。

江東区の水辺に親しむ会では、プレゲンツ音楽祭のような水上の舞台での能の上演、2016 年には「日本橋と深川水都復活まつり」におけるクルーズや「エンタメクルーズ」、2019 年には内部河川を巡る「繋ぐクルーズ」などさまざまな実験的なクルーズを試みてきました。これからも内部河川のクルーズを盛んにするための試みを続けて行くつもりです。

本会理事 庄司邦昭

### 2024年の活動予定

- 3月16日(土)、17日(日)防災イベント(旧中川川の駅周辺)
- 3月16日(土)~4月7日(日)第20回お江戸深川さくらまつり(門前仲町大横川付近)
- 5月11日(土)夜の水彩カフェテラス(旧中川川の駅周辺)
- 5月19日(日)、6月16日(日)、7月21日(日)水彩サロン春学期(森下文化センター)
- 7月15日(月、祝)明治丸シンポジウム



# みずべ Mizube Vol.41



シーカヤック

### 江東区民が身近な水辺空間に親しめるために！ 東京海洋大学・学術研究院 田村祐司 (本会会員)

江東区水辺に親しむ会が、東京のベネチアとも言われている、水辺環境に恵まれた江東区の水辺をフィールドにして、区民の皆さんが水辺に親しみ楽しめる企画を日頃から精力的に行ってくださっていることに対して、まず感謝を申し上げます。

江戸時代に行徳の塩を江戸に運ぶために開削された小名木川、そして両岸にたくさんの草木や花々が咲き、多自然型の広い河川敷を有する蛇行する旧中川の両側には、江東区や江戸川区により整備された素晴らしい遊歩道やサイクリングロードがつけられ、旧中川と小名木川が合流する水辺空間に「川の駅」が設置されました。また、その袂の中川船番所資料館等とともにこの空間は、江東区民や子どもたちが水辺に近く親水エリアとしてハード面が非常に整備されてきました。

これからは、この素晴らしい川辺の親水空間を、陸側から眺めながらウォーキングやジョギングをする方々が益々増えてくると思います。そして、今後はそれに留まらず、川の駅を中心に、旧中川や小名木川、川の駅前の広い水域で、江東区民や子どもたちが、リバーカヤック、シーカヤック、レガッタ用ボート、ゴムボート、ヨットなどの小型船に気楽に乗れる利用システムを、本会が江東区や指導スタッフと連携してつくっていくためのソフト開発も大切なことではないかと考えます。

その一環として、2023年度より本会が関わる「江東・旧中川水彩パーク」が、旧中川の水辺空間で、リバーフェスタ・ナイト水彩カフェテラス・ポートフェス等の具体的な企画を開催され始めたことは、大変素晴らしいことと考えております。このように、多くの江東区民や子どもたちが水辺自然体験を楽しみながら、水上から陸側を眺める視点で水辺環境に関心を寄せていくことはとても大切なことです。このことは、世界各国で動き始めている、持続可能な開発と環境保護というSDGsの教育実践活動にも繋がっていくと思います。

さて、東京海洋大学では、20年前から千葉県山手市の本学臨海実習センター周辺の海で行っていたシーカヤック実習を、数年前より越中島キャンパスポンド周辺水域で実施し始めています。また、今年度からは、5月・9月・3月の3回、江東区民の皆様を対象とした江東区主催のシーカヤック教室を、本学も支援させていただきながら実施し始めています。今後は、越中島キャンパスポンド前の豊洲運河の一部をフィールドに実施している海洋大ヨット実習やレガッタ用ボートによる実習を、シーカヤック同様に江東区民の皆さんにも楽しんでいただくような企画に関しても、本会や江東区とも連携して検討していきたいと考えています。

そして、江東区の水辺で多くの区民が小型船を漕いだり、その他さまざまな水辺体験活動を楽しみながら実施し、自分自身が住む江東区の水辺について関心を寄せていただければと考えています。

# 2022年の活動

新型コロナウイルス感染拡大状況で本会の活動も制限される中で、水彩サロンとCIG活動はほぼ平年並みに実施された。

## 1 水彩サロン 2022年春学期

- 第1回 5月15日(日)「華のお江戸と隅田川」 神崎宣武(民俗学者)
- 第2回 6月19日(日)「華のお江戸と下り酒」 神崎宣武(民俗学者)
- 第3回 7月24日(日)「華のお江戸と芸能」 神崎宣武(民俗学者)



水彩サロン 2022年春学期

## 2 水彩サロン 2022年秋学期

- 第1回 9月25日(日)「地名から読み解く」 高野祐次(墨田区副区長)
- 第2回 10月16日(日)「江戸・黄表紙の世界」 棚橋正博(日本近世文学者)
- 第3回 11月20日(日)「中村学園物語」 小林和夫(中村学園前理事長)



水彩サロン 2022年秋学期

## 3 夜の水彩カフェテラス 2022年5月7日(土)

東大島の旧中川の川の駅にぎわい施設周辺で開催されました。2020年に発生したコロナ禍のためにイベントが開けない状況にありましたが、ようやく開くことができた久しぶりのイベントだったこともあり、多くの来場者がありました。



夜の水彩カフェテラス

## 4 令和4年度エコリーダー講座 2022年9月18日(日)

えこっくる江東に事業に協力して豊洲にて開催しました。雨天のためにデイングーによる乗船体験は中止しました。



令和4年度エコリーダー講座

## 5 CIG活動

江東区からの委託を受けて実施しているCIG(City in the Green)活動では、例年通りキャンペーン、講習会、交流会などを実施し、ニュースレターを発行しました。

## 連載江東の橋

### 《その4 萬年橋》高浦秀明(橋梁設計士)

有名な萬年橋は何時創架されたのでしょうか。正確な記録には残っていません。小名木川は江戸時代初め天正18年(1590)に開削されました。開削当初には小名木川の南側にはほとんど土地がありませんでしたが、富岡八幡宮が寛永4年(1627)に永代島に造られ、この頃には小名木川を渡るために橋があったと推測されます。



深川萬年橋下 葛飾北斎

また隅田川から小名木川に入るところに幕府の川番所がありました。江戸市街の外縁で出入りの管理を行っていたわけです。川番所は明暦の大火、明暦3年(1657)以降に江戸市域の拡大に伴って寛文元年(1661)小名木川の東端、旧中川とぶつかる場所に移りました。松尾芭蕉は萬年橋の北側に住んでいました。川番所も芭蕉も江戸初期17世紀ごろの話です。現在は芭蕉記念館があり、萬年橋の傍らには芭蕉像が座っています。

萬年橋は題材として、広重も北斎も取り上げています。桁下が高く弧を描いていて橋の上からの見晴しが良いとされていたことはいくつかの文献でうかがわれます。長さ23間、幅3間この規模は江戸時代、明治時代ほぼ変わりません。

明治時代には明治2年含め数回架け替えられています。明治中期の写真を見ると、大変みずばらしく田舎の人道



明治中期の萬年橋(風俗画報)これが萬年橋?

橋の様です。江戸時代の伝承とイメージが合いません。水上交通から陸上交通へ変わったので低い橋になったとざっくり解説されることもあります。具体的にはどうなのでしょう。

関東大震災の被害について東京市の記録によれば、石造りで「焼損墜落」とあります。木橋が石造の橋台に乗っていたのでしょうか。隣接する高橋が市電も走る立派な鉄橋だったのに比べ見劣りする感じがします。



現在の萬年橋(復興橋梁)向こうに水門が見える。

震災復興によって、昭和5年(1930)長さ56.3m、幅17.2m鋼タイドアーチ、現在の姿に生まれ変わりました。(萬年橋に似た形式の橋に秋葉原の松住町跨道橋があります。)清洲橋が隅田川に向けやや左に見える。「ケルンのながめ」と言われていましたが、背の高いビルの林立でそれほどの感慨はありません。

新小名木川水門が、昭和36年(1961)高橋との間にできました。小名木川の水位を下げる内水低下もあり、物流の役割は失われたものの、萬年橋は小名木川の隅田川への玄関として堂々と立ち続けています。

・現地情報など

最寄り駅：地下鉄大江戸線、半蔵門線 清澄白河駅徒歩5分。 昭和5年(1930)建設。

一つづく